# 八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: 綿繰り機他、綿糸製造器類

現地の通称:

資料種別: ◉ 製品-実物 ○ 製品-レプリカ ○ 製品-模型 ○ 製品図面 ○ 写真等 ○ 図書掲載 ○ その他

資料種類: ☒ 人力用具 ☐ 手押式 ☐ 耕耘用 ☐ 調製用 ☐ 畜力用具 ☐ 乗用式 ☐ 施肥播種 ☒ 施設類 ☐ 原動機具 ☐ 牽引式 ☐ 管理用 ☐ 機素 ☐ トラクタ具 ☒ 定置式 ☐ 収穫用 ☐ その他

管理プレートNo.

台帳No. Y191

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 不明

製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

生産した綿実から糸を紡ぐ時に用いる用品類

①綿繰器：綿実から実を取出して綿毛と分離する。②紡ぎ車：棉毛のような短繊維をより合わせて糸にする用品。あらかじめ棉毛を細長くまとめた根毛の紐（しのという）の末端を紡錘軸に巻きつけて固定しておく。しのの紡錘軸に近い部分を左指でしっかり持ち，右手でハソドルを廻しながら，左指先を紡錘軸の斜方向に遠ざけるとしのは引き延ばされ，撚(よる)られて糸となり，紡錘軸に巻きつけられる。 →利用経過欄に続く

利用経過収集記録意義等

紡ぎ車は中国大陸で完成され，江戸時代(1600～1860)にわが国に入り，明治末期までには棉作地帯に広く普及した。③糸巻器：紡錘軸の糸を太さなどを点検しながら巻きつけ、次の作業の準備をする。④機織器(はたおりき)：綿糸や絹糸を使って織物をつくる織器である。初期にあった「いざりばた」は地機(じばた)とも言い、縦糸の張り具合を腰の力で加減するため、投げ出した足で操作する姿がいざりに似ているからこの名がある。操作に熟練を要するが、精密さにおいては機械織機すら及ばないと言われ、現在でも精密な手織器として珍重される。

仕様書_解説等

右に全体図

標本個々の名称と用途等は未調査

外観特色関連図等

資料の所在

公開展示室

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文



農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編